

- 問1 3世紀の倭国の女王である卑弥呼が、中国の王朝である魏に使いを送った目的として、当時の政治的背景から説明したものととして最も適切なものはどれですか。 (2020年 埼玉県公立入試 類似)
- 大陸の進んだ文化や制度を直接学び、仏教を日本に広めるため
 - 魏の皇帝から倭国の王としての正当性を認められ、国内の統治を安定させるため
 - 元との貿易を円滑に進めるために、港の整備や通貨の流通を依頼するため
 - 隋の皇帝に対して、対等な外交関係を築くことを求めるため
- 問2 佐賀県の吉野ヶ里遺跡のような「環濠集落」が弥生時代に多く見られるようになった背景として、当時の社会状況を説明した記述として最も適切なものを次から選びなさい。 (2023年 佐賀県公立入試 類似)
- 大規模な祭祀を行う場所を確保するため、居住区と神聖な場所を区別する必要性が生じたため。
 - 大陸から馬や牛などの家畜が導入され、それらが逃げ出さないように囲いを作る必要があったため。
 - 狩猟や採集を中心とした生活から、山岳地帯に拠点を移して生活を守るため。
 - 稲作が始まり、余剰生産物や土地・水をめぐる集落間の争いが激しくなったため。
- 問3 3世紀前半の倭（日本）の様子を伝える中国の歴史書『魏志倭人伝』において、国内で続いていた大きな乱れを鎮めるために、多くの国々によって共立されたとされる女王の名前を答えなさい。 (2026年 岐阜県公立入試 類似)
- 卑弥呼
 - 北条政子
 - 持統天皇
 - 推古天皇
- 問4 弥生時代に大陸から稲作とともに伝わった金属器のうち、硬くて鋭利な特徴を活かして、木工具や農具、武器などの実用的な道具として広く普及したものは何ですか。 (2016年 大阪府公立入試 類似)
- 土器
 - 鉄器
 - 青銅器
 - 石器
- 問5 弥生時代に大陸から伝わった技術や文化が、当時の社会に与えた影響を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 鹿児島県公立入試 類似)
- 狩猟や採集がより効率的になり、人々は移動を繰り返しながら竪穴住居に住んだ。
 - 稲作の普及により食料の蓄えが可能になり、貧富の差や集団をまとめる王が現れた。
 - 巨大な前方後円墳を築くための高い土木技術が伝わり、各地に大規模な古墳が作られた。
 - 青銅器が実用的な農具として普及したことで、開墾が進み全国的な統一国家が誕生した。
- 問6 弥生時代に使用された道具とその背景について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2024年 山口県公立入試 類似)
- 金属器のうち、青銅器は主に木材を加工するための工具として、鉄器は祭祀用の宝物として使い分けられた。
 - 収穫の効率を上げるために、鉄製の鎌を用いて稲の根元から刈り取る方式がこの時代に確立した。
 - 牛や馬を農作業に利用する牛馬耕が導入されたことで、大規模な水田開発が全国で一斉に進んだ。
 - 稲作が始まった当初は木製の農具が中心であったが、次第に大陸から伝わった鉄器なども使われるようになった。
- 問7 弥生時代の社会において、大陸から伝わった「青銅器」と「鉄器」の使い分けに関する説明として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 長崎県公立入試 類似)
- 青銅器は書院造のような武家の住居を飾る装飾品として用いられた。
 - 青銅器は主に通貨として流通し、鉄器は主に古墳の副葬品としてのみ使われた。
 - 青銅器は祭りの道具として用いられ、鉄器は工具や農具として用いられた。
 - 青銅器は鋭い切れ味を活かして農具に、鉄器は祭りの楽器に用いられた。
- 問8 弥生時代の吉野ヶ里遺跡などに見られる、高い木材を組み上げ周囲に柵を張り巡らせた「物見やぐら」が作られた背景として、当時の社会状況を正しく説明しているものはどれですか。 (2016年 岐阜県公立入試 類似)
- 稲作の普及により土地や水をめぐり争いが増え、集落を守るための防御機能が必要になったため。
 - 天皇を中心とした中央集権体制が確立し、地方の豪族がその権力を誇示するために建設したため。
 - 高床倉庫に保管した穀物がネズミの被害に遭わないよう、高い場所で常に監視を行うため。
 - 大陸から伝わった仏教の儀式を行うため、天に近い高い場所で祈りを捧げる必要があったため。
- 問9 弥生時代に大陸から伝わり、日本の社会を大きく変化した稲作の広がりについて述べた文として、正しいものはどれか。 (2023年 佐賀県公立入試 類似)
- 稲作は日本全土に均一に広まり、北海道や沖縄においてもこの時期に大規模な水田開発が行われた。
 - 稲作が伝わった直後に大王（おおきみ）と呼ばれる強力な支配者が現れ、全国の開墾を命令した。
 - 稲作の普及により、それまで使われていた打製石器がすべて消失し、すべてが青銅器や鉄器に置き換わった。
 - 稲作は九州から始まり、東北地方まで広がったが、当時の気候や環境の影響もあり北海道や沖縄を除く地域に定着した。
- 問10 弥生時代から古墳時代にかけて、収穫道具が「石包丁」から「鉄鎌」へと変化したことに伴い、収穫の方法はどのように変化したか。 (2016年 奈良県公立入試 類似)
- 地中の根を掘り起こす方法から、穂を叩いて実を落とす方法へと変化した
 - 手作業で一粒ずつ拾う方法から、土器を使って一度に回収する方法へと変化した
 - 実った穂先だけを摘み取る方法から、株の根元から刈り取る方法へと変化した
 - 石の表面で穀を削る方法から、金属の刃で穂を細かく刻む方法へと変化した
- 問11 弥生時代の遺跡で見つかる特徴のうち、当時の社会において集団間の緊張や争いがあったことを最も直接的に示しているものはどれですか。 (2021年 愛知県公立入試 類似)
- 集落を二重、三重に囲む深い堀や、尖った杭を並べた逆茂木（さかもぎ）の跡
 - 湿気やネズミの被害から穀物を守るために、柱にねずみ返しを設けた床の高い建物
 - 祭祀や宝物として用いられたと考えられる、複雑な文様が描かれた青銅製の銅鐸や銅鏡
 - 収穫した稲の穂を効率よく摘み取るために使用された、平らな石に穴を開けた石包丁
- 問12 弥生時代に大陸から稲作が伝わり、食料を蓄えることが可能になったことで生じた社会の変化について、最も適切な説明を選んでください。 (2021年 神奈川県公立入試 類似)
- ナウマン象などの大型動物を狩猟するために、人々は移動を繰り返しながら生活するようになった。
 - 土地や水の利用、蓄えた食料などをめぐって、ムラの間で争いが起こるようになった。
 - 政府から農民へ平等に土地が割り当てられ、収穫した稲を税として納める制度が整った。
 - 表面に縄目の文様がある、厚手で黒褐色の土器が全国的に作られるようになった。